

2020年 1月 9日

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院循環器内科に、冠攣縮狭心症で通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学循環器内科講座では、以下の臨床研究を実施しています。今回行う研究は、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

冠攣縮狭心症責任病変のずり応力と症状に関する後ろ向き観察研究

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学循環器内科講座 准教授 田中 篤

3. 研究の目的

冠攣縮狭心症は、血管内皮細胞が産生する一酸化窒素と呼ばれる血管拡張物質の分泌異常が病態に関与しています。この一酸化窒素は、血管内腔表面に加わる”ずり応力”と呼ばれる一種の摩擦力が、産生の調節を行っています。そのため冠攣縮狭心症では、ずり応力の異常が存在すると推定されていますが、これまで冠攣縮狭心症でずり応力を解析した報告は無く詳細は不明です。今回、光干渉断層法で得られた冠動脈血管画像から、コンピューターを用いて、ずり応力を計算し、冠攣縮狭心症の病態に関与しているかを検討します。本研究によりずり応力が冠攣縮狭心症の病態に関与している事が明らかとなれば、あらたな治療標的となるため、より良い検査および治療法の開発に結びつきます。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

冠攣縮狭心症の患者さんで、2008年1月1日から2019年10月31日までの期間中に、光干渉断層法の検査を受けた方

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、光干渉断層法の画像、狭心症症状の有無、高血圧や糖尿病などの冠危険因子、服用されていた薬剤に関する情報です。

(3) 方法

光干渉断層法にて取得した冠動脈の画像データを、流体力学解析用ソフトウェアに取り込み解析する事で、ずり応力を計算します。その後、得られたずり応力と、狭心症状の有無や、冠危険因子、服用薬剤等との関係について解析します。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。

研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学循環器内科講座 担当医師 田中 篤

TEL : 073-441-0621 FAX : 073-446-0631

E-mail : a-tanaka@wakayama-med. ac. jp